

## 答辞

肌寒い風が頬をなでる中でも、穏やかな陽光が私たちを包み込む本日、私たちのために心温まる式典を執り行ってくださり、誠にありがとうございます。

本日は、ご多忙の中、校長先生をはじめ、先生方、ご来賓の皆様、保護者や親族の皆様、そして新生徒会執行部の皆さんにお集まりいただき、卒業生を代表して深く御礼申し上げます。

私たち 237 名は、皆様からいただいた数々のお祝いと激励のお言葉を胸に、喜びと切なさが交錯する卒業への一步を踏み出すことができました。

三年前の春、私たちは新たな期待とほのかな不安を抱えながら、法政高校の門をくぐりました。あの頃、世界は新型コロナウイルスの影響下にあり、互いの顔が見えない日々が続きました。初めはマスクの下を見せるだけでさえ、戸惑いや躊躇いがありました。

しかし、毎日の授業や行事、そして部活での熱い競争の中で、何気ない一言やふとした笑い声が、私たちの心に深い絆を刻んでいきました。休み時間に交わした何気ない会話や、笑い転げながら歩いた駅までの道が、私たちにとってかけがえの無いものであったことを、今になって実感します。そんな日々のひとつひとつが私たちにとって大切な宝物です。

この三年間、先生方はいつも温かい眼差しで見守り、時に厳しく、時に優しく背中を押してくださりました。その愛情と導きは、未来へ向かう力強い灯火となりました。心から、ありがとうございます。

そして、私たちをいつも 1 番近くで支え続けてくれたお父さん、お母さんへ。朝の冷たい空気の中、お弁当を心を込めて用意し、変わらぬ愛情で私たちを包んでくれた日々。悩みや不安に打ちひしがれた時、そっと差し出された温かい言葉は、心の支えとなっています。これからも、私たちが歩む道を見守っていただければと思っています。そして、いつか恩返しができるその日まで、感謝の気持ちを胸に生きていきます。

最後に、共に笑い、共に励まし合った仲間たちへ。

思い返せば、楽しい時、嬉しい時、辛い時、悔しい時、そのすべての思い出に、必ずみんながいました。これまでは当たり前だったみんなとの日々が、かけがえの無いものだったことを、今になって強く実感しています。

休み時間に交わした何気ない会話、帰り道に語り合った夢、そして一緒に刻んだ数多の思い出は、かけがえのない一生の宝物です。

法政高校での楽しかったこと、悔しかったこと、泣き腫らしたこと、笑い合ったこと、努力したこと、叱られたこと、本気でぶつかり合ったこと、そのすべてが、今の私たちを形作り、未来への希望となっています。

この学び舎が、これからも数えきれない温かな記憶と笑顔に包まれ、法政高校のさらなる発展を心から祈念し、ここに答辞とさせていただきます。

2025 年 3 月 8 日  
卒業生代表 松崎祐介